

<指導の実態>

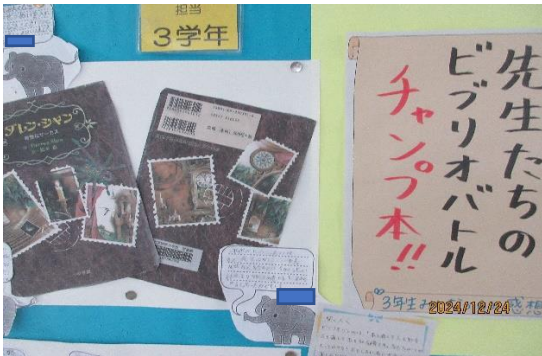
①教育データの活用について（○成果●課題）

活用したデータ資料…自作のアンケート

○知りたい情報のポイントを絞って聴くことができ、授業づくりに活かすことができた。

●学期のはじめや単元の終わりでアンケートをとることはできるが、毎日の継続したデータ収集はできない。

②指導と評価の手立ての効果と課題、児童の反応



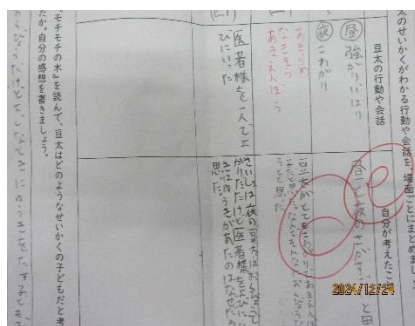
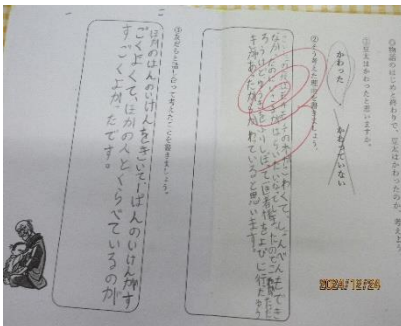
手立て①

教師によるミニビブリオバトルのモデル提示

初めて取り組む、ミニビブリオバトルの楽しさが伝わるように単元の導入でモデルを提示し今後の見通しがもてるようにした。また、教師のチャンプ本と子どもたちからのコメントを掲示し意欲をもたせた。

手立て⑤付箋による考えの交流

登場人物の発言や行動の叙述から読み取れることを、一人ひとりが付箋で書き、グループで意見交流、クラス全体に発表し、考えを深めることができた。付箋に書くことで、自分の意見を手軽に書き表すことができた。



授業の板書

手立て⑥

主人公の心情の変化に気付くようなワークシートの活用

主人公の気持ちが表れている叙述を見つけ、場面ごとの主人公の心情の変化について書き表すことができたようにした。そのことで、主人公の変化を可視化することができた。



<協議会> 授業の意図・反省

- ・クラスの実態では自分の考えを文にすることが苦手、自分で考えて発表することが苦手な児童が多いので児童に自信をつけさせれば発表に対して苦手意識が減り、得意になるのではないかと考えた。
- ・段階を踏んだワークシートを活用し、発表原稿を作成することで一人ひとりが自信をもって自分の考えを伝えることができた。

- ・自作のアンケート結果を授業に活かしたので児童の苦手意識が高いものへの意識の変容は把握できたが、スクールダッシュボードによる授業アンケートの情報までできなかったなので今後は日々の積み重ねを活かしていきたい。
- ・全員発表することタイムマネジメントが難しかった。
- ・活発なディスカッションをしていく面でチームによっては沈黙する時間があり、課題が残った。

研究協議（○成果 ●課題）

- 読書貯金をすることで読解力の向上につなげることができた。
- 「おおきいみかん」の視点で文章をかくことは他教科でもつなげることができる。
- ワークシートの文章量が多いのにも関わらず、発表することができていた。
- 児童一人一人の意欲が伝わってきた。
- 児童一人一人の読んでいる本が違うので本時のめあての達成が難しかった。
- 人物像や、性格に焦点を当てて発表すれば心情の変化の感想につながっていくのではないか。
- 児童の感想が発表の仕方や時間についての感想が多くなってしまっていた。
- 付箋の使い方は本の人物や行動についての感想を増やすとよかった。

指導講評

塩原先生より

- ・クラスの実態を踏まえた授業（身に付けさせたい力）をはっきりさせることが大切。
- ・学習が苦手な児童の手立てとして「読書貯金」「スピーチ」「大きいみかん」「テンプレート」「ワークシート」「教員のビブリオバトル」（学習のゴール）を示すことで、見通しをもって学習できた。
- ・深い学びとしてディスカッション、よかったカードで自分の思ったことを言語化できていた。
- ・本時のめあてに近づけるためには、友達の発表の中で気付いたこと、初めて知ったことにポイントを絞っていけばよかった。
- ・自分の好きな言葉を見つけてみんなに広めることで、語彙力があがることにつながる。

白田先生より

- ・単元の最初と最後にデータをとると、子どもたちがどこでつまづいているのかが分からない。
- ・毎時間で児童のつまづきを把握（授業アンケート）し、指導に生かせるとよい。
- ・きっかけで使ったデータと指導で使ったデータの結び付けが大切。
- ・学校全体で授業アンケートの取組の共有をしていくことが望ましい。